家庭数配付　　かがやけ太陽の子　「　友情　努力　笑顔　」

学校だより　　新潟市立江南小学校　　令和４年４月25日

江南の子

令和４年度
第２号

将来の夢と利他の心

校 長　　藤 井　正 人

「ぼくは，しょうらい大くさんになりたいです。…」と，江南小の２年生が新潟日報の“ゆめ”コーナーで夢宣言をしたのが４月１日。それ以降，医師や看護師，電車の運転士，バスケットボールの選手，昆虫博士，絵本作家，ファッションデザイナー，ピアニスト，プログラマーなどなど，当校児童の多種多様な将来の夢が掲載されています。

自分の興味や関心，大好きなことから生まれた“ゆめ”は，読んでいて心が躍ります。「日本一の研究者になりたい」「プロのせん手になって，たたかうのがたのしみ」「世界中の人にきいてもらいたい」…“その意気や良し”と膝を叩き，力強く背中を押したくなります。我が校の子どもたちですから，なおさらその気持ちが高まります。

小学生時に抱いた夢をもち続けて，それを見事に叶えてほしい，まずは純粋にそう願います。一方で，これから学年や学校が進む中で，夢をどんどん変えていってもいいんだよとも助言したい。さらに，これからの時代，今は存在しない仕事や職業がたくさん生まれてくる，それを自分で創ることもできるよと，進取の気概も鼓舞したい。

このように，毎朝子どもたちの将来の夢を読んでいると，改めて学校教育の使命を自覚します。それは，子どもたちが将来どのような形であれ，自分の夢を実現するための資質や能力を育てることであると。

同時に，他者のために自分を生かす**「利他の心」**を育む大切さも強く実感しています。この日本という国では，昔から，このように語られてきました。

「働く」（はたらく）とは、「傍」（はた）を「楽」（らく）にすること。

つまり，「働く」とは，自分以外の誰かを楽にすることであり，自分以外の誰かを幸せにすることであると語り継がれてきたのです。そして，「働き甲斐」とは「傍」を「楽」にしたことの喜びに他なりません。「働く」ことは，まさに利他の心の発露です。

子どもたちの夢作文にも，利他の心の芽が表れています。「せかい中の多くの赤ちゃんがよろこぶようなかわいい絵本をかきたい」「…くわしくしらべて，みんなにもこん虫にきょうみをもってほしい」「ぼくの運転する電車を見に来た子どもたちに汽てきを鳴らしたい」…自分が為していることの先に，利他の姿を想像しています。

極端な言い方かもしれませんが，たとえもち続けた夢が叶わなくても利他の心をもってさえいれば，どのような職業・仕事に就こうが働き甲斐は得られると信じます。

新年度が始まって２週間余。各教科の学習が本格的に始まっているとともに，学級では当番・係活動が，先週から高学年の委員会活動が，今日からは縦割り清掃が始動しました。それらの活動を通して，責任をもって自分の仕事をやり遂げる態度の育成は当然のこと。併せて，あなたの行っていることが他の人の役に立っている，他の人を楽しませている，と価値付けながら，利他の心も育んでいきたいと思います。